

古文書を読む会学習記録

作成日 平成31年 3月 4日

開催日	平成31年 2月28日	時 間	10:00~12:00
場 所	区民活動センターAB会議室	出席人数	13名
講 師	真田 雅行氏	作成者	飯塚 玲子
テーマ	第二学習 艱難実録(箱館戦争)(下)⑱		
概 要	<p>明治2年己巳4月5月(1869年、つちのとみ)</p> <p>一依田織衛他八人は、君公(板倉勝清)御進退を深く心配し御脱出出来る様に小子へ任せる事を聞いていたので、この日乗込まれた事など話すと大いに安心して喜んだ。この八人は、死ぬことも覚悟し残り憐れだが、金子も尽き御手当ても出せない遺憾の事である。</p> <p>一23日両公(板倉、小笠原)は、小子などお供と異船に乗込みすぐに出帆。一同大いに安心、数日来の心労のため船酔い難儀する。その時紛失物(金子、双眼鏡、ピストル、食料など)多く、乗組員の異人が盗んだと思われるが、大事の前の小事と打ち捨てる。</p> <p>一29日仙台領勝見浦へ着。5月9日まで滞泊。松本要人、石川某便船にて上陸陸地の模様を探索。石川だけが戻る。仙台北下は芸州人大勢入り込み、総督久我大納言様御出になり嚴重に餘党御穿鑿。仙台重臣15、6人が切腹申付けられ、石川桜所も入牢。上陸は危険なので早々に帰ったが、松本はその事を承知で塩釜まで行く。海岸も穿鑿がきびしく、土人漁人見物が多く侍姿ではいとは不都合なので、両公、町人などに変装し船底で板を敷きその上に毛布位で忍んだ。</p> <p>一数日滞在しても三本檣艦も来ず、箱館の模様もわからず出帆の様子も相見えず、心配し相談の上、寒風沢へ陸の様子や和船便船の都合を探索のため丹州家来丹藤を遣わす。</p> <p>一丹藤によると寒風沢は、侍の格好でなければ上陸も出来、便船もいろいろいて、湊には、佐吉という船頭の板倉の手船がありそれに乗れることになった。船は、積立丸という商船で四日後に佐吉が小舟でお迎えに来る密約が出来た。</p> <p>一その用意が出来たことを申し上げると、小笠原公は考えたが、両公とも頼むことに決め、ガリイ、石川へも談判しようとしたが、東名にいて連絡がつかない。</p> <p>一佐吉と丹藤が来て、明日の約束は如何かと尋ねた。佐吉旅宿は、懇意の仙台役人と同じで、役人の話では、勝見浦の異船は、脱走を乗せ、侍もいるので明日改めるといふ。その前に今夜佐吉船に乗り換える様にお迎えに来た。小子と一柳は東名へ上陸、カリイと石川に挨拶することにして、直ぐに荷物を乗せ一同迎船に乗込み夜明け前に寒風沢の佐吉船に移る</p> <p>一5月1日暁寒風沢沖積立丸へ乗替、13日夕上総国松部着船。変装して上陸宿に泊まる。小子は松部から陸行で江戸に行き洋行の船を周旋するために横浜の様子を探る事となるが横浜の様子は心得ず、君公、富寿平だけ残り二手に分れ陸行で行くことに決まる。</p>		
次回予定	平成31年3月14日 10:00~12:00 於:金沢区民活動センターAB会議室 第一学習 野島浦 鈴木家文書⑮		